

～赤十字電子医学資料「コンソーシアム」に参加して～

参 加 記

羽 田 智和子

今年度に入社し病院図書室に勤務しはじめて3カ月程度の私は、病院図書室という特殊な図書室と、不慣れなシステムや制度に慣れることに精一杯で、何をどうしたらよいか、何から手をつけたらよいか、分からないことばかりの状態でした。そんなときに研修会に参加する機会に恵まれ、病院図書室の現状や実態を知ることができたことは何よりの収穫であり、とてもよい勉強になりました。

研修会は、基礎講座と事例報告とに分かれていました。文献の探し方という大切な基礎からはじまり、電子ジャーナルの扱い方や図書室の利用実態、それに伴う日常業務の問題点と解決方法が同時に示される構成になっており、自分の状況に当てはめ比較できると共に、これから取り組むべきことを明確にすることができ、とても理解しやすい内容でした。講師を務めてくださった方々が、詳細にかつ分かりやすく講義、報告してくださったおかげだと思います。

研修会を通して、電子化は今後の図書室の目標であり、課題であることが特に感じられました。前日にコンソーシアム説明会があったこともあり、将来的には冊子体から電子ジャーナルへの切り替えが行われていくことを実感しました。当院では、電子ジャーナルを集めたウェブ上のページがありますが、

PubMed、医中誌からのリンクは形成されていないために、利用の幅が狭まっているのではないかと思います。

図書室に足を運べば、目当ての雑誌が目に入るという冊子体とは違い、電子ジャーナルでは検索が繁雑なため、短時間でより簡単にかつ便利に検索できなければ、せっかくの電子ジャーナルが有効に活用されないのだと感じました。

そんなとき、基礎講座にてLinkOutの存在と設定方法を知ることができ、検索の労力削減、時間の節約にとっても有効だと感じました。せっかく、ここでLinkOutの情報と知識を得ることができたので、是非当院でも活用し、電子ジャーナルを利用しやすくしていきたいと思います。

今回の研修会に参加し、様々な病院図書室の方向性に触れることができました。おかげで、暗中模索だった日々の業務に目標をたてることができました。

同時に、たくさんの情報と有意義な知識を得たことで、正式にスタートしてから1年半の当院図書室にとって、サービス内容や患者図書など、まだまだ至らない点が次々と浮き彫りになってしまいました。

やはり、どこから手をつけてよいか分からない状態に戻ってしまいましたが、研修会で学んだことを有効に活用し、目標に向けて焦らず、着実に利用者の立場にたった図書室運営を心掛けていきたいと思っています。

HADA Chikako

石巻赤十字病院 図書室

tosho@ishinomaki.jrc.or.jp

「第15回日赤図書館協議会研修会」

